

# サンメッセ 環境インパクト

## サプライチェーン 全体で環境に配慮し、 環境負荷を低減



### サンメッセの環境に対する考え方

パリ協定を境に、気候変動リスクが顕著となり、グローバルで環境問題に取り組まなければならない今、当社はハリヨが棲む「水の都」の地を基盤に事業を展開する企業として、環境に貢献できることはなにか？を常に問いながら事業活動を続けていきます。

社内一貫生産体制で事業活動を行っていく上で、バリューチェーン全体の環境負荷を考慮し、その低減に努めます。

### サンメッセ環境宣言

サンメッセ株式会社は創業の地大垣の「ハリヨが泳ぎ、ホタルが舞う水都」の美しい環境を次の世代に引き継ぐことが、かけがえのない地球(オンリーワンアース)を守ることにつながるとの認識に立って、当社に関わる全ての人々(利害関係者)と共に、印刷を核としたあらゆる事業活動を通じて、環境保全に努めます。

### 環境活動取組体制

代表取締役 社長	マネジメント レビュー	環境管理 責任者	事務局 品質保証室
-------------	----------------	-------------	--------------

## サンメッセが提供する環境ソリューション

CO<sub>2</sub> 71.8%

### 生産フロー



### STEP 01 原材料調達

#### 提供する環境ソリューション



#### FSC®森林認証紙

当社はCoC認証を取得し、印刷物にFSC®認証紙を使うことが許されています。



#### ベジタブルインキ

印刷インキ中に再生可能な大豆油、亜麻仁油、桐油、ヤシ油、パーム油など植物由来の油を、一定量以上含むインキをいいます。

### FSC®森林認証紙の利用推進

大量に紙を消費する印刷会社の責任として、適切に管理された森林から作られた紙に印刷した製品であることを証明するCoC認証を取得。2007年よりFSC®森林認証紙を取り扱い、その利用を積極的に進めています。2022年度は1,650件の取り扱いがありました。目標に対しては大幅な達成となりました。

2022年度の成果

1,650件

昨年比  
136%





## 基本行動指針

- 1.循環型社会を目指し、省エネ、省資源、リサイクル活動を積極的に推進します。
- 2.有害な危険性のある物質には代替物質を探索し、事業活動において、確実かつ継続的に有害物質の削減に努め、可能となり次第その使用を中止します。
- 3.法と社会秩序を守り、業界の指針、お客様及び協力会社の環境保全にも積極的に協力し、進んで汚染の防止(予防)に努めます。
- 4.自らの業務を通して、内外に影響力を行使できる環境保全活動に対して積極的に活動を行います。
- 5.全ての拠点が、環境マネジメントシステムに適合します。
- 6.全従業員に環境保全の大切さを認識させ、積極的に環境保全を推進する社員を育てます。
- 7.地域社会との共生を大切にし、地域の皆さんに愛される開かれた企業を目指します。

## シジョンと生産フロー



**■ お客様のGHG排出量削減への貢献**

**■ 水なし印刷**

湿し水を使わず、水資源を節約できるほか、有害な廃液を出さない印刷。

**■ オンデマンドデジタル印刷**

刷版を使用せず、必要な時に必要な分だけ印刷可能で、用紙のムダも少ない印刷。

**■ UVニス**

従来からの表面加工方法であるフィルム貼り(PP貼り)よりも環境負荷の低いUVニスを使用した表面加工を行っています。

**■ のり綴じ製本**

パンフレットやカタログなどを針金の代わりにのりで製本するものです。

**■ 簡易包装**

当社では環境負荷軽減の面からできるだけ簡易包装に努めています。

**■ 工場間輸送を削減**

工場間をまたいで生産していた製品を一つの工場内で完結させることで、工場間の輸送作業を削減し、効率のよい生産フローを確立いたしました。

**■ 難細裂化のり**

古紙再生時に、ミキサーの中で細かくならない製本ののりで、フィルターで除去しやすく、再生パルプへののりの混入を少なくできます。

### 刷版リサイクルの推進による環境負荷低減

当社では2015年より、PLATE to PLATEの取り組みを行っています。PLATE to PLATEは、使用した刷版(アルミ製の版)をリサイクルして再度新品の刷版へと再生させるクローズドループリサイクルの仕組みです。これによりCO<sub>2</sub>、廃棄量ともに削減することができました。

#### 2022年度の成果

印刷用刷版のリサイクルによる温室効果ガス削減

804t-CO<sub>2</sub>e

昨年比 135%

印刷用刷版のリサイクルシステム採用

97,955 kg

昨年比 135%

